

歩いて見よう！ 利根運河

第40号(2009年10月号) 利根運河の生態系を守る会

- | | |
|--|---|
| 1. 報告 第64回自然観察会「江川 クモとホタルの夕暮れ観察会」
クモがあふれる田んぼの夢 | 西野三千代
八幡明彦 |
| 2. 報告 第65回自然観察会「運河・理密公園植物観察会」 | 鈴木とし子 |
| 3. 利根運河で目立つ外来種3 オオブタクサ(キク科 ブタクサ属) | 柳沢朝江 |
| 4. 利根運河の鳥たち12 モズ(スズメ目 モズ科) | 柳沢朝江 |
| 5. 千葉大「園芸療法勉強会」に参加して | 宮原久子 |
| 6. 報告 創立10周年記念大会 第20回運河塾
「今 生態系ネットワークの再生が始まる～」第I部 | 田中利勝、高島河川事務所長、根本野田市長
井崎流山市長 佐原雄二(弘前大学教授) |
| 7. 流山市の英断！国内初の「生物多様性なげやま戦略」策定中 | 新保國弘 |



野田市江川耕地で行われた「水田のクモとホタルの夕暮れ観察会」で容器を手にクモを探し出す八幡明彦さん

■報告 第64回自然観察会「江川 クモとホタルの夕暮れ観察会」

8月1日(土) 17時～19時40分 晴れ 気温23℃ 湿度66% 東北東1.6m 日入18時44分 参加者36名
クモの観察会は初めて参加したので、珍しいことばかりで感心しきりでした。お蔭様で、楽しかったです。一番印象に残ったのは、やはり、「オオトリノフンダマシ」です。教わらなければクモとは気がつかないでしょう！ 蛍は、最近見る機会がなかったので、ぜひ見たいと思っていたのですが、草むらの中に光っているのが見えて、良かったです。気温がちょっと低かったので、どうかな～と心配でしたが、ありがとうございました。(西野三千代)

クモがあふれる田んぼの夢

八幡明彦

◆ クモ観察の夕べ

クモは網で餌を獲る種類と、網を使わず獲る種類とがある。造網種は、夜間のみ網を張るものも多いため、夜の観察会を何度か会で開いていただいた。2009年8月1日の観察会は、「クモとホタル観察の夕べ」と題して、復田2年目の江川周辺にて行った。

夕方、薄暗くなり始める頃、せつせと田んぼに網を張り始めるアシナガグモ類が目につく。腹部が細長くて、昼間は足をまっすぐ一列に伸ばして、イネ類の葉裏に潜んでいる。夕刻から夜にだけ網を張り、朝になると畳むのは、水面や湿った土から羽化してくるユスリカの仲間などを主に獲るためだ。網は弱々しいが、イネの間に水平に張られ、効率よく餌がかかる。

イネの周辺に地面と垂直の網を張って、バッタやカメムシ類などが飛び込んでくるのを待っているのは、ドヨウオニグモやナカムラオニグモなど。こちらは昼夜とも網が見られる。夜はなかなか探しにくい、網を張らないクモも実は水田に大量にいる。昼間、株の間や畦を走りまわるコモリグモ類。イネの葉の上で獲物を刈るクリッとした大きな眼のハエトリグモ類や、蟹そっくりな風貌のカニグモ類。

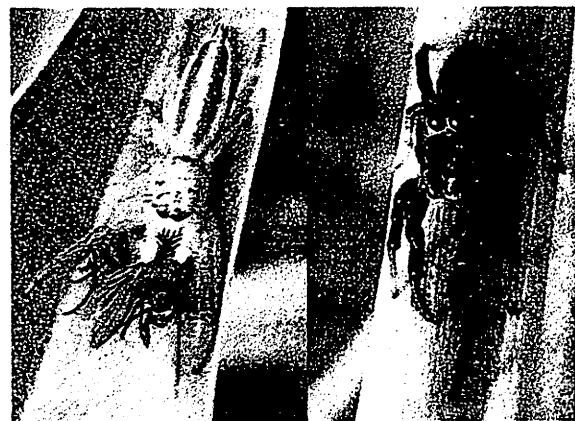
そして、ヨシ藪湿地では妙な形のオオトリノフンダマシが観察できた。深夜にならないと造網せず、ふだん葉裏に張り付いた姿はなかなか見つけにくいクモだ。「右岸側の土水路は草刈りを待ってください」と共生ファームにお願いしてあったので、水路沿いでもオスメスがセットで観察できたのもラッキーだった。

この日参加者にお見せできたクモは15種。私が7年前に通年で調べたところでは145種はこの辺りにいる。実はここから遠くない湿地で、日本未記載種も見つかっており、「ノダ〇〇グモ」と新たな和名がつく可能性もある。

そんな珍しいものから「当たり前の」クモまで全てが肉食性で、日々生きた虫を捕らえて暮らしている。水田や農地の食物網でクモが昆虫



オオトリノフンダマシ♀と卵のう



色彩の異なるオスクロハエトリの♀と♂



卵のうをつけたコモリグモと、カニグモの一種

の捕食者として果たす役割、さらにカエルなどの餌となる役割は、はかりしれないものがある。造網性クモは待ち伏せ型捕食者なので、主に餌を食べている地点に網があり、何を食べているかを目の前で見せてくれる、という点で、食物連鎖を実感するのに、好都合だ。網の形状や捕獲の「技術」など行動面でも興味は尽きない観察対象である。

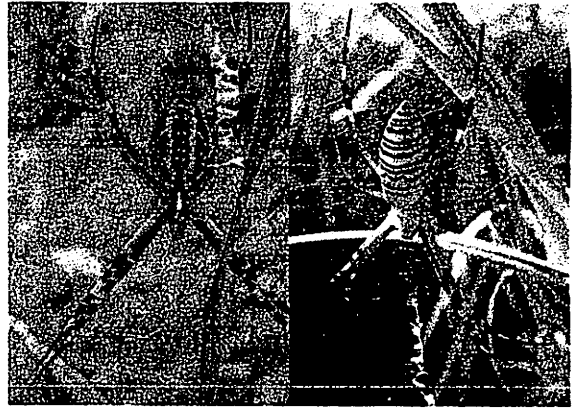
微環境に注目を

今年の江川田んぼ周辺で嬉しかったのは、コガネグモがたくさん戻ってきたことだった。例年、南西端の小谷津の一角に生息は確認していたが、今年は右岸側の土水路の広い範囲に、水路両側の藪に橋を渡す形で造網していた。コガネグモは春先の数ミリから成長して初夏には(足を広げて)名詞サイズになる大型のクモで、特に速い成長を支えるのはコガネムシ類などを含む多様な大型の餌だと考えられる。近縁種にナガコガネグモがあり、こちらは秋にかけてバッタなどを食べて大きくなるため、水田周辺に多くいるクモである。いずれも昼間から目立つクモであるが、この夜の観察でも、ナガコガネの幼体は、ヨシ藪周辺や、刈りこまれ過ぎている水路溝周辺に多数みられた。ただ、左岸側の土水路周辺や水田畦は草刈りが丁寧すぎて、膝丈ほどの足場もなくこのクモが見られない。地方によって「稲牛若」の異名もこの種が、田んぼそのものの周辺にもっと多くてもよいと私は思っている。そのためには、草刈りを工夫することだ。一案として、広範囲を一気に根元まで刈るのでなく、モザイク状の「虎刈り」にする方法があろう。図に示したように、クモには好む草丈・形状・葉や茎の強さというものがある。特定のクモを探すときは、それが好みそうな形状をした植物(イネ科の細長い葉とか、

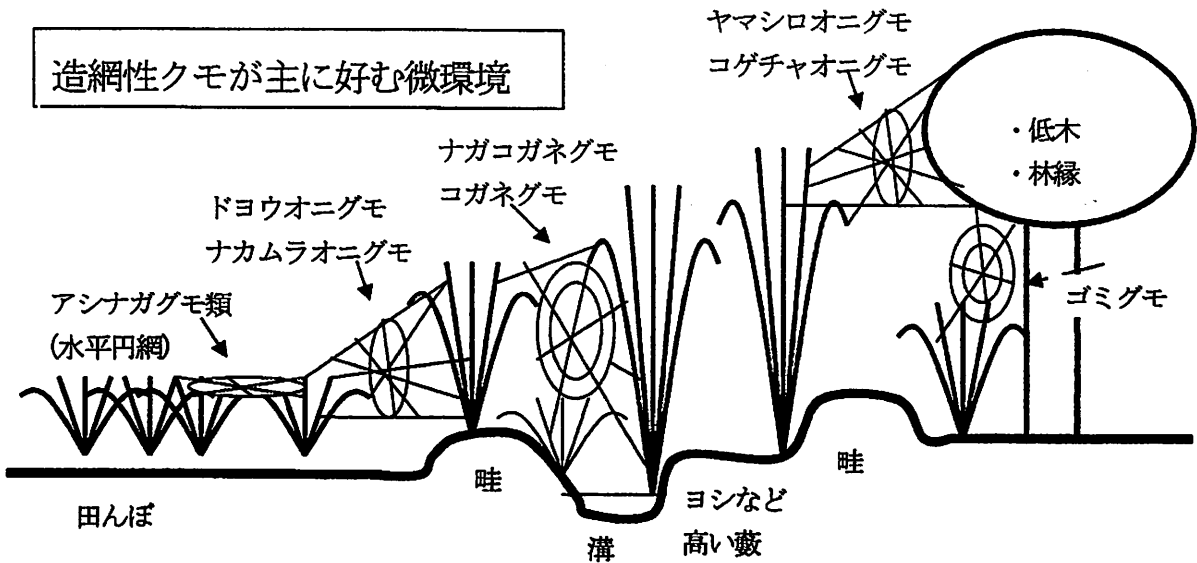
広葉樹の葉とか)と、微細な地形(明るさ、湿り気、足場空間)に注目する。それらはおそらく、クモにとっては、特定の季節に、捕らえたい虫の通り道であるのだろう。そういう「微環境」が多様であることが、多くの種類と数のクモの出現を見られるフィールドの条件なのだ。



コガネグモと卵のうから出た仔の円居(まどい)



ナガコガネグモ腹面と背面



□11月29日(日)第68自然観察会

「ヨシゴイの里でタゲリを探そう」

集合：9時 東武野田線運河駅下車5分 運河水辺公園(運河駅に案内者)(小雨決行)。解散：におどり公園 12時30分頃。案内：田んぼの貴公子タゲリを見に、運河水辺公園からヨシゴイの里(新川耕地)まで歩きます。もしかするとオオタカやハヤブサ、ノスリなどの猛禽類も観られるかも。コース：運河水辺公園→運河遊歩道(左岸)→新川耕地・ヨシゴイの里→におどり公園。持ち物：双眼鏡、あったら望遠鏡と鳥図鑑、筆記用具、帽子、汗ふきタオル、飲み物、昼食、敷物、雨具など。参加費：会員100円、会員外200円。

□12月19日(土)第69回自然観察会

「利根運河・理窓公園に冬の野鳥を訪ねて」

集合：9時 東武野田線運河駅下車 ふれあい橋そば(運河駅に案内者)小雨決行。解散：12時30分頃。案内：運河遊歩道(右岸)、理窓公園をゆっくり歩きながら冬鳥を観察します。利根運河の河畔林に、今年もマヒワやアトリ達が来ているのでしょうか。コース：運河遊歩道(右岸)→理窓公園→運河遊歩道(右岸)→ふれあい橋。持ち物：双眼鏡、あったら望遠鏡と鳥図鑑、筆記用具、帽子、汗ふきタオル、飲み物、昼食、敷物、雨具など。参加費：会員100円、会員外200円

□1月11日(祝)第70回自然観察会

「猛きんの里・江川・三ヶ尾に冬の野鳥を訪ねて」

集合：9時 東武野田線運河駅下車 ふれあい橋を渡った運河土手沿い地点(運河駅に案内者)。小雨中止。解散：14時頃、野田市清掃工場南東の野田自然共生ファーム仮事務所前。帰路：東武バス「梅郷住宅前」または豆バス「しらさぎ通り入口」乗車。案内：運河の水鳥や江川・三ヶ尾の猛きん類を中心に観察します。この観察会では例年サプライズゲスト?が現れます。過去にはハヤブサやヤマシギなど、今年は何が見られるかな。

コース：運河遊歩道(右岸)→柏大橋→トイレ休憩→運河遊歩道(左岸)→山高野橋→運河土手で昼食→江川放水路→野田自然共生ファーム仮事務所前。持ち物：双眼鏡、あったら望遠鏡と鳥図鑑、筆記用具、帽子、タオル、飲み物、昼食、敷物、雨具、防寒具など。参加費：会員100円、会員外200円。

■来年2月以降の行事予定

2月20日(土) 運河塾

3月28日(日) ヨシゴイを待つ準備(ゴミ拾い)と早春の生きもの観察会

■運営委員会の日

11/18、1/20、3/17

■新入会員のご紹介(09年7月~9月)

小宮陽一(流山市) 永井慈子(松戸市)
内海陽一(野田市) 斎藤貞子(流山市)
榎戸 誠(柏市) 高田幸江(習志野市)
鈴木宏芳(松戸市) 中川晴夫(流山市)

09年9月末現在の会員数(家族会員を含めて)はお陰様で187名になりました。皆様の「利根運河生態系ネットワークづくり」へのご支援を感謝申し上げます。

歩いて見よう!利根運河 第40号

2009年10月10日

発行 利根運河の生態系を守る会

発行人 田中 利勝

編集人 新保 國弘

事務局 小瀧 康男

〒270-0101 流山市東深井333

山田ビル2F 共生プランニング内

TEL・FAX 04-7153-9955

年会費 1,000円(会報の送料込み)

会報 年4回 4、7、10、1月の10日発行

加入者名 利根運河の生態系を守る会

郵便振替口座番号 00100-5-176281

原稿送り先のアドレス(新保)

kuni-shin@sound.ocn.ne.jp

記事の無断転載禁